



Comprehensive plan

第3部 基本計画

重点プロジェクト



本計画で町の将来像として設定する「やすらぎづくり～日本一の暮らしやすさを目指して～」の実現に向け、特に優先的な予算配分のもと、重点的に力を入れていく施策分野を重点プロジェクトとして掲げていきます。重点プロジェクトは、旧来の行政所管の枠組みにとらわれることなく、町民、企業など町全体で一定の方針のもとに取り組む施策です。

ここでは、「子育て世代の暮らしやすさの実現」と「ネットワークと連携による地域振興」に向けた取り組みを掲げます。

1 いいじゃん子育て市川三郷プロジェクト

(子育て世代の暮らしやすさの実現)

さまざまな主体によるさまざまな分野の取り組みで、不安なく子育てができる市川三郷を実現していきます。特に、町外の同世代の方々が、市川三郷で子育てをしたくなるよう、先進的な取り組みを進めます。

本プロジェクトでは、「愛」「教」「地」の3つのキーワードのもと施策を展開し、町全体で子育てをバックアップする体制を整えます。

愛 (愛)の分野 …… 子育て世帯への生活支援や医療の充実

教 (教)の分野 …… 子どもの教育や保育の充実

地 (地)の分野 …… 地域で担う子育て支援

「**愛**」

- 子育て世帯への生活支援
- 地域医療の充実
- 小児科救急医療体制の強化
- 病児・病後児保育の充実

子育て世代の経済的負担を軽減するため、医療費助成や児童手当など、既存の制度の拡充を検討します。また、地域独自の経済的支援のあり方についても、検討を進めます。

子育てにおける医療面の不安を解消すべく、地域診療所の一層の充実とともに、町立病院における小児科再開の可能性検討や周辺病院との連携強化を進め、子育てに不安のない医療環境を整えます。また、病児・病後児保育を充実させることなどにより、働く父親、母親の就労の際の負担を少しでも取り除きます。

「教」

- 子育て情報の提供
- 教育環境の充実
- 図書館の充実
- 保育施設の充実

子育て世代に適切な子育て情報を提供するため、地域子育て支援センターを活用して、子育て教室などを開催します。また、児童の教育環境を充実させるため、学校や図書館の設備を充実させるとともに、読み聞かせなどの教室を開催します。また、保育施設を充実し、さまざまなニーズに対応した保育サービスを提供します。

「地」

- 子どもの集いの場の設置
- 子育て世代の親の集いの場の設置
- 子育てボランティアの育成
- 安価な住宅の提供
- 子育て世代の雇用の確保

子どもが安心して遊び、親同士が集える場所を提供します。また、こうした施設を中心に、地域のボランティアや住民が子育てを支える体制を整えます。また、町営住宅の整備や子育て世代の住宅取得の方策などを検討し、子育て世代の流出の防止と町外からの転入促進を図ります。さらに、子育て世代の雇用の方策を検討し、職住近接による子育てしやすい市川三郷を実現します。

2 市川三郷 **輪** づくりプロジェクト

(ネットワークと連携による地域振興)

さまざまな主体や地域資源のネットワークと連携により、地域の活性化を目指します。特に、ネットワークや連携によりこれまで見出せなかった新たな価値を生み出す取り組みを進めます。

本プロジェクトでは、「結」「集」「時」の3つのキーワードのもと施策を展開し、町民全体で地域振興を目指す体制を構築していきます。

結 (結) の分野 …… 物と物のつながりによる活性化
集 (集) の分野 …… 人と人のつながりによる活性化
時 (時) の分野 …… 時を越えての連携による活性化

「**結**」

- 資源と資源をつないだ観光振興
- 駅を中心とした観光に配慮したまちづくり
- 六郷インターチェンジ（仮称）を活用した観光振興
- 農業と観光の連携
- 農業と教育の連携

観光の振興を目指し、さまざまな資源を歩いて観光できるルート設定と芦川溪谷や蛾ヶ岳を中心とする山岳地域にはウォーキングルートの充実に努めます。特に、JRなどとの連携により身延線の駅を起点とした、文化や自然、歴史などさまざまなテーマに沿ったまち歩きやハイキングのPRとコースの充実に努めます。また、六郷インターチェンジ（仮称）開通にあわせ、インターチェンジから観光施設へと円滑につなげる道路網を整備し、他地域から観光客を受け入れる体制を整えます。

次に、地域の特徴ある農業を、観光や教育の場面で生かしていきます。観光分野では、農産物の直売や農業体験、クラインガルテンを展開し、教育の分野では、農業体験学習や給食を活用した地産地消を推進します。

「集」

- ボランティア活動などの住民活動の活性化
- 新規就農者・農業ボランティアによる農業の活性化
- 子育て世代の定住促進
- 町と他地域との連携

多様な人々が集い、積極的に町の発展にかかわっていくことができるまちをつくります。ボランティア活動を支援し、新規就農者や子育て世代、団塊の世代の町内への移住を促進します。特に、高齢化の進んだ地域においては、介護や福祉などの分野で、民間企業による地域の住民へのサービス提供が容易ではない場合があります。そうした地域では、行政と地域住民の連携により一定水準のサービス提供を目指します。

また、これまで以上に他の市町村との交流を深め、それにより地域のよさを高め、活性化につなげていきます。

「時」

- 地域の歴史・文化資源の有効活用
- 地域の伝統技術の活性化
- 地域の伝統産業に根付いたイベントの開催

地域の歴史や伝統を大切にし、その時間的なつながりを生かした地域の活性化を進めます。甲斐源氏発祥の地とされる歴史やまちなかに残る歴史的な建造物、あるいは伝統的な産業を生かした観光振興を図ります。また、そうした歴史的な資源を維持、保存するための住民間の協力関係を地域の新たな活力として高めていきます。